

近畿厚生局長 殿

滋賀医科大学医学部附属病院

管理者名 病院長 柏木 厚典 印

滋賀医科大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3の規定に基づき、平成 年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	医科：82.8人 歯科：6.0人
--------	------------------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法 → 別紙参照(様式第12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績 → 別紙参照(様式第13)
- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	244人	135.4人	379.4人	看護補助者	56人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	4人	6.4人	10.4人	理学療法士	12人	臨床検査技師	36人
薬剤師	25人	16.7人	41.7人	作業療法士	4人	臨床衛生検査技師	1人
保健師	0人	0人	0.0人	視能訓練士	6人	その他	0人
助産師	25人	3人	28.0人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧	0人
看護師	569人	53.3人	622.3人	臨床工学技士	10人	医療社会事業従事者	4人
准看護師	0人	0人	0.0人	栄養士	0人	その他の技術員	3人
歯科衛生士	2人	0人	2.0人	歯科技工士	1人	事務職員	50人
管理栄養士	6人	6.8人	12.8人	診療放射線技師	29人	その他の職員	23人

- (注) 1 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。
- 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
- 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

- 8 入院患者、外来患者及び調剤の数
 歯科、矯正歯科及び小児歯科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	523.2人	6.4人	529.6人
1日当たり平均外来患者数	1,226.1人	57.4人	1,283.5人
1日当たり平均調剤数	1,026.40剤		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者数延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	致死性心室性不整脈(心室頻拍/心室細動, VT/VF)に対する植込型除細動器(ICD)植込術	取扱患者数	25人
当該医療技術の概要(循環器内科) 心室頻拍および心室細動既往症例、心配蘇生術後の致死性心室性不整脈再発予防目的、並びに心機能低下症例における初発の致死性心室性不整脈出現予防目的での植込型除細動器(ICD)植込術			
医療技術名	難治性心不全に対する心臓再同期治療(CRT-P)/ICD機能付き心臓再同期治療(CRT-D)	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要(循環器内科) 心臓再同期療法(CRT)とは、薬剤抵抗性難治性心不全に対し、右室および左室を電気刺激(ペーシング)して収縮力を改善させる治療法であり、QOLの改善、入院の減少および生命予後を改善する効果がある治療法である。近年心不全症例に合併しやすい心室頻拍/心室細動(VT/VF)等の致死性心室性不整脈に対する除細動(ICD)効果を併せ持つCRT-D治療も有効であるため症例を選択して治療している。			
医療技術名	難治性心房細動に対する肺静脈隔離術(PV isolation)	取扱患者数	117人
当該医療技術の概要(循環器内科) 薬剤抵抗性、難治性心房細動症例に対して行うカテーテル治療(カテーテルアブレーション)である。発作性、持続性心房細動の他、最近では電気ショック治療にも抵抗性の永続性心房細動に対しても治療を行っている。心房細動の治療率は80%以上になっており、QOLの改善をもたらしている。			
医療技術名	高度石灰化冠動脈狭窄病変に対するロータブレード治療	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要(循環器内科) 通常の冠動脈狭窄病変に対する風船治療(PTCA)では解除できないような高度に石灰化した冠動脈狭窄病変に対して、先端にダイヤモンドを埋め込んだバーを高速に回転させることにより、石灰化病変を粉砕して狭窄を解除する治療法である。同時にステントを留置することにより再狭窄を予防可能である。			
医療技術名	家族性突然死症候群における遺伝子診断	取扱患者数	175人
当該医療技術の概要(循環器科) 家族性突然死症候群において、ダイレクトシーケンス法のみならずDHPLC法やHRM法を活用することで、複数の遺伝子を短時間で検索し、変異を同定している。また遺伝型と病態との関連を解析し、適切な治療法確立を目指している。			
医療技術名	次世代シーケンサーを用いた家族性不整脈症候群の遺伝子解析	取扱患者数	13人
当該医療技術の概要(循環器科) 既知の候補遺伝子には変異が同定されなかった家族性不整脈症候群症例において、次世代シーケンサーを用いることにより、全エクソン領域の変異を同定し、疾患の原因遺伝子の同定を試みている。			
医療技術名	遺伝子多型診断によるC型慢性肝炎の治療効果予測	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要(消化器内科) C型慢性肝炎に対するインターフェロン・リバビリン療法の治療効果予測に関わる既報のIL28B遺伝子多型を、独自に設計したTaqMan PCR法を用いて解析し、適切な治療方針の決定を行う。			
医療技術名	遺伝子多型診断によるC型慢性肝炎の治療副作用発現予測	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要(消化器内科) C型慢性肝炎に対するインターフェロン・リバビリン療法の貧血副作用発現に関わる既報のITPase遺伝子多型を、独自に設計したTaqMan PCR法を用いて解析し、適切な治療方針の決定を行う。			
医療技術名	遺伝子多型診断による炎症性腸疾患の免疫調節療法の適正化	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要(消化器内科) 炎症性腸疾患に対する免疫調節療法における6MP/azathioprineの適正な用法・容量を、同薬剤の代謝経路で日本人に多いMRP-4とITPaseの遺伝子多型を独自に設計したTacMan PCR法にて解析し、顆粒球減少などの副作用発現予測により行う。			
医療技術名	クローン病に対する生物製剤療法の適正化	取扱患者数	90人
当該医療技術の概要(消化器内科) クローン病治療における生物製剤(抗TNF α 製剤)に対する二次無効を、独自に開発した同製剤に対する抗体検出法を用いて解析し、適正な生物製剤療法(増量、多剤への切り替え)を実施する。			
医療技術名	潰瘍性大腸炎に対するタクロリムスの経静脈投与の有用性について	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要(消化器内科)			

難治性の潰瘍性大腸炎に対して、経口投与によるタクロリムスはステロイド抵抗性の潰瘍性大腸炎に対し、2009年よりすでに保険適応がある。しかし、経口投与によるタクロリムスは吸収率の個人差が大きく、有効かつ安全な至適血中濃度を得るには1週間程度の時間を要することが問題となる。タクロリムスを経静脈的に投与し、より早期の治療反応が期待できる。			
医療技術名	クローン病狭窄部へのステロイド剤局注有用性の検討	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要(消化器内科) 近年、バルーン小腸内視鏡が開発され、クローン病の狭窄に対しバルーン拡張術を施行することによりある程度の狭窄拡張が可能となっているが、依然として早期に再狭窄を来すケースがある。ステロイド剤(トリアムシロン)をバルーン拡張後に狭窄部に局注することにより狭窄拡張効果がより高まる可能性が期待できる。			
医療技術名	悪性肝門部狭窄に対するチューブステントの意図的胆管内留置	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要(消化器内科) 悪性胆道狭窄による黄疸の解除にプラスチックチューブステントを使用するが、一般的には狭窄部を越えて十二指腸まで留置するため食物残渣が詰まることにより早期の閉塞を来す。そこで胆管内に市販のプラスチックチューブステントをそのまま胆管内に留置、あるいは8~10cmのナイロン糸を取り付けた後、胆管内に留置することにより開存期間の延長を期待する。			
医療技術名	慢性C型肝炎患者におけるIL-28遺伝子多型の検討	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要(消化器内科) 慢性C型肝炎の治療において、IFN治療に抵抗する要因として慢性C型肝炎患者のIL28B近傍の遺伝子多型(rs12979860, rs8099917)が関与しているという報告が注目を集めている。本研究では、IFN治療を行うHCV患者にたいしIL-28遺伝子多型をdirect sequence法、Taqman PCR法にて検索、IFN治療抵抗性の要因となっているかを検討する。			
医療技術名	慢性C型肝炎患者におけるITPA遺伝子多型とPEG-IFN製剤およびRibavirin併用療法の治療効果および副作用発現に対する検討	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要(消化器内科) 慢性C型肝炎の治療において、IFN治療に伴う貧血の要因としてITPA遺伝子の多型が関与しているという報告が注目を集めている。本研究では、IFN治療を行うHCV患者にたいしITPA遺伝子多型をdirect sequence法、Taqman PCR法にて検索、IFN治療に伴う貧血の要因となっているかを検討する。			
医療技術名	多施設共同ランダム化介入比較試験「自己免疫性膵炎の再発に対するステロイド維持療法の有用性についての臨床研究」	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要(消化器内科) 自己免疫性膵炎の初期治療、特に経口プレドニゾロン内服による緩解導入療法については一定のコンセンサスが得られ汎用されている。一方、緩解導入治療後の維持療法については、適応症例、経口ステロイド剤の維持量、維持療法期間を含め、その可否についてコンセンサスが得られていない。ステロイド維持療法の可否を検討するため、厚生労働省難治性膵疾患研究班に参加し無作為化比較試験(RCT)を行う			
医療技術名	急性膵炎の早期診断と重症化予知に関する尿中trypsinogen-2測定の有用性に関する多施設共同臨床研究	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要(消化器内科) 膵酵素の一つであるトリプシン(trypsin)の前駆物質trypsinogen-2は、急性膵炎の発症早期から尿中に排泄されることが知られている。今まで迅速かつ簡便な診断法が行えなかった実地臨床では、この迅速測定法によって、急性膵炎の診断やその除外が可能となり、急性膵炎患者の早期からの適切な施設への転送や治療が可能となり、急性膵炎患者の重症化の抑制とともに生命予後の改善が期待される。			
医療技術名	早期慢性膵炎および慢性膵炎疑診例の前向き予後調査	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要(消化器内科) 慢性膵炎臨床診断基準2009にて早期慢性膵炎の概念が取り入れられて以来、従来に比較してより早期の膵障害の拾い上げが可能となったが、早期慢性膵炎の臨床的意義については依然症例の積み重ねが必要である。早期慢性膵炎および慢性膵炎疑診症例の病態および治療の有無による転帰を検討する目的にて、厚生労働省難治性膵疾患研究班に参加し、前向き予後調査を実施する。			
医療技術名	術後食道狭窄に対するステロイド剤局注有用性の検討	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要(消化器内科) 良性食道狭窄に対して内視鏡的バルーン拡張術を行っているが、治療抵抗性の狭窄に対してステロイド局注が効果があるとの報告がありその有用性について明らかにする。			
医療技術名	日本国内における初発未治療の慢性期慢性骨髄性白血病(CML-CP)を対象とした観察研究	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要(血液内科) わが国における初発未治療の慢性期慢性骨髄性白血病(CML-CP)患者を対象とした前向き観察研究を行い、CML治療の全体像と治療成績を把握する。また、微小残存病変を国際標準法であるQRT-PCR法で測定し海外データとの比較を行うとともに、初診時の予後因子であるSokal score、イマチニブ/2nd TKI血漿中濃度、BCR-ABL遺伝子変異などが各治療法別の予後へ及ぼす影響を評価することを目的とする。			
医療技術名	成人core binding factor 急性骨髄性白血病に対するシタラピン大量療法のKIT遺伝子型別反応性を評価する臨床第IV相試験(JALSG CBF-AML209-KIT)	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要(血液内科) 成人core binding factor 急性骨髄性白血病症例を対象に、寛解後療法としてシタラピン大量療法を行った際のKIT遺伝子変			

英の有無による治療反応性の違いを検討し、シタブリン大量療法での最適な使用法を明らかにすることを目的とする。			
医療技術名	染色体・遺伝子変異が成人急性骨髄性白血病の予後に及ぼす影響に関する観察研究(JALSG AML209-GS)	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要(血液内科) 染色体異常および急性骨髄性白血病(AML)の発症・進展・予後に影響を及ぼす可能性が示唆されている遺伝子変異を網羅的に解析することにより、これらが単独または複合的に成人AMLの予後に与える影響を検討し、分子病態に基づく個別化治療を行う上での層別化因子となりうる分子病型を明らかにする			
医療技術名	FLT3/ITD変異陽性成人急性骨髄性白血病を対象とした同種造血幹細胞移植療法の有効性安全性に関する臨床第Ⅱ相試験(JALSG AML209-FLT3-SCT)	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要(血液内科) JALSG参加施設において新規に診断された全ての急性骨髄性白血病(AML, WHO分類による定義)と骨髄異形成症候群(MDS, WHO分類による定義)、慢性骨髄単球性白血病(CMML, WHO分類による定義)を登録し、(1)AML全体の5年生存率ならびに(2)MDS全体の5年生存率、(3)CMMLの5年生存率を検討するための前向き臨床観察研究を実施する。			
医療技術名	日本成人白血病治療共同研究グループ参加施設に新たに発生する全AML、MDS、全CMML症例を対象とした5年生存率に関する観察研究(前向き臨床観察研究)(JALSG-CS11)	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要(血液内科) JALSG参加施設において新規に診断された全ての急性骨髄性白血病(AML, WHO分類による定義)と骨髄異形成症候群(MDS, WHO分類による定義)、慢性骨髄単球性白血病(CMML, WHO分類による定義)を登録し、(1)AML全体の5年生存率ならびに(2)MDS全体の5年生存率、(3)CMMLの5年生存率を検討するための前向き臨床観察研究を実施する。			
医療技術名	イマチニブ治療により分子遺伝学的寛解に到達している慢性期慢性骨髄性白血病患者を対象としたニロチニブの安全性と有効性を検討する多施設共同第Ⅱ相臨床研究(NILSw trial)	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要(血液内科) 慢性期慢性骨髄性白血病は第1世代チロシンキナーゼ阻害薬(TKI)でありイマチニブにより長期にわたる分子遺伝学的寛解を得られるようになった。第2世代TKIであるニロチニブはイマチニブより早期に同様の寛解に到達させることが判明した。そこでイマチニブを長期投与中の患者を対象にニロチニブに変更することでの安全性と有効性を前向きに検討する。			
医療技術名	イマチニブまたはニロチニブ治療により分子遺伝学的完全寛解に到達している慢性期慢性骨髄性白血病患者を対象としたニロチニブ投与中止後の安全性と有効性を検討する多施設共同第Ⅱ相臨床研究(NILSt trial)	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要(血液内科) 慢性期慢性骨髄性白血病患者に対してチロシンキナーゼ阻害薬(TKI)は分子遺伝学的寛解を多数の患者にもたらすが、多大なる治療費が必要である。第2世代TKIニロチニブにより分子遺伝学的寛解を2年以上維持した患者で治療中止をした場合、どれくらいの期間を寛解維持でき、またはどれくらいの期間で再発するのかを前向きに検討し、TKI離脱可能かを検証する。			
医療技術名	チロシンキナーゼ阻害剤治療により分子遺伝学的完全寛解に到達している慢性期慢性骨髄性白血病患者を対象としたダサチニブ投与中止後の安全性と有効性を検討する臨床試験(STDAST)	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要(血液内科) 慢性期慢性骨髄性白血病患者に対してチロシンキナーゼ阻害薬(TKI)は分子遺伝学的寛解を多数の患者にもたらすが、莫大な治療費が必要である。第2世代TKIダサチニブにより分子遺伝学的寛解を2年以上維持した患者で治療中止をした場合、どれくらいの期間を寛解維持でき、またはどれくらいの期間で再発するのかを前向きに検討し、TKI離脱可能かを検証する			
医療技術名	同種造血細胞移植後に発症する赤芽球癆に対するリツキシマブ療法の有効性・安全性並びに長期予後に関する臨床第Ⅱ相臨床研究	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要(血液内科) 造血器悪性疾患や再生不良性貧血に対して当科では同種造血幹細胞移植を施行しているが、血液型主不適合移植を選択せざるを得ない症例がある。その際10-20%の確率で免疫学的機序により赤芽球癆が発症する。リツキシマブ投与により残存する宿主のBリンパ球を制御することで治療が可能なが報告されているが、保険適応外投与であることから、その投与量設定、有効性、安全性、長期予後について前向きに検証する。			
医療技術名	糖尿病患者における持続血糖測定と糖尿病性合併症との関連の解明	取扱患者数	70人
当該医療技術の概要(糖尿病内分泌内科) 血糖コントロール不良状態では、糖尿病性血管合併症(網膜症・腎症・神経障害・動脈硬化症)の発症率を増悪させることが証明されている。また食後の急峻な血糖上昇は動脈硬化・動脈硬化性疾患の独立した危険因子として確立されている。そのため、血糖日内変動の把握の重要性が提唱されている。しかし、これまで血糖モニターの方法として最も汎用されているのは1日数回程度の自己血糖測定であるが、24時間の血糖コントロールの全容を把握し得なかった。近年、米国で24時間連続的に			

日中の血糖値の変動が、長時間血糖コントロールを維持し続けることが、近年、本國では長時間持続的に5分毎の平均血糖値を測定する持続血糖測定器が開発され、日中・夜間を問わず血糖コントロールの全容を把握することが可能となった。持続血糖測定と糖尿病性合併症との関連を検討し、糖尿病性血管合併症の発症阻止のための新たな治療戦略を構築することが可能となる。

医療技術名	色素失調症の遺伝子診断	取扱患者数	2人
-------	-------------	-------	----

当該医療技術の概要(皮膚科 科)
色素失調症は、典型例にあっては臨床診断が可能であるが、軽症例は診断に難渋する場合がある。すでに責任遺伝子と同定されているNEMO遺伝子の変異を検出する事により、診断への応用を試みる

医療技術名	Goltz症候群の遺伝子診断	取扱患者数	1人
-------	----------------	-------	----

当該医療技術の概要(皮膚科 科)
ゴルトツ症候群は、非常に稀な先天性疾患である。ほとんどが孤発例であり、診断は簡単ではない。そこで、すでに責任遺伝子として道営されているPORCN遺伝子の変異を検出する事で、診断への応用を試みる

医療技術名	Werner症候群の遺伝子診断	取扱患者数	1人
-------	-----------------	-------	----

当該医療技術の概要(皮膚科科)
Werner症候群は遺伝的早老症のひとつであり、DNAヘリケースであるWRN遺伝子の変異によって生じる。診断基準によって診断されるが、それらの主要徴候がすべてそろわない場合は、遺伝子変異の存在が診断に必要とされる。そのため、責任遺伝子の変異を検出し、診断への応用を試みる

医療技術名	高リスク症例に対するオフポンプ法・両側内胸部動脈バイパス・スケルトナイズ法によるグラフト採取(冠動脈バイパス術)	取扱患者数	100人
-------	--	-------	------

当該医療技術の概要(心臓血管外科)
オフポンプ法は人工心肺を用いた従来の冠動脈バイパス術と比較して合併症発生率・手術死亡率が低い。また両側内胸部動脈を用いたバイパスは最良の生命予後を提供することが示されてきた。さらに重要な点は、これらの利点が、近年我々が遭遇する患者の大部分を占める高リスク症例でより早期からより著明となることである。しかし欧米での普及率はオフポンプ法20%・両側内胸部動脈4~10%と低い。理由は、術後胸骨感染と右内胸部動脈の使用法に対する懸念が考えられる。スケルトナイズ法はこれらの懸念を解決し得るが、高度な技術が要求されるため、容易ではない。我々は、過去10年間に単独冠動脈バイパス術を約1000例行い、術前心停止症例6例を除き全例オフポンプ法で完遂、スケルトナイズ法を全例に、両側内胸部動脈を約60%の症例に用いてきた。その成果は、平成22年度だけで主要ジャーナルに16編採択された。

医療技術名	小型トランスデューサーを備えた高周波超音波装置(冠動脈バイパス)	取扱患者数	100人
-------	----------------------------------	-------	------

当該医療技術の概要(心臓血管外科)
冠動脈バイパス術は強力な生命予後改善・心筋梗塞予防効果を有することが示されてきた。その効果は、バイパス血管が良好に開存している限り保証される。高い開存率を維持するために良質なバイパス血管の確保や、熟練した外科医の技術が不可欠となるのは言うまでもないが、加えて、吻合を行う標的冠動脈の正確な同定と適切な吻合部位の選択も同様に重要な要素である。現在、バイパス血流の有無、吻合の質の評価方法は冠動脈造影がゴールドスタンダードだが、術中の冠動脈造影は現実的でなく、外科医は吻合の際の感覚や自らの経験を頼りに手術の出来を判断せざるを得ないのが実情であった。我々は平成22年度から術野で使用可能な小型トランスデューサーを備えた高周波超音波装置を臨床応用し、標的冠動脈の同定・至適吻合部位の選択・吻合部位の形態評価などに使用してきた。国内のごく少数の施設でのみ臨床使用されており、先駆的立場で我々の経験を、国内の主要学会で発表している。

医療技術名	小血管画像理データ処理システムを用いた冠動脈バイパスグラフトの術中評価	取扱患者数	100人
-------	-------------------------------------	-------	------

当該医療技術の概要(心臓血管外科)
我々は、術中に肉眼的にバイパスグラフトやその他の血管系の評価をする新しい装置を臨床応用しており、より質の高い手術を提供する一助となっている。この装置は、造影剤としてICG(インドシアニングリーン)を用い、これにシステム本機から出る近赤外線を当てること、血管中に流れるICGを蛍光発色させ、システムのアームヘッドについて特殊CCDカメラがそれを捉え、動画として本機に付属したモニターに映し出すことで、血流の有無を確認することが出来る。

医療技術名	僧帽弁閉鎖不全症に対するバタフライ切除	取扱患者数	20人
-------	---------------------	-------	-----

当該医療技術の概要(心臓血管外科)
僧帽弁後尖の変性病変に対してこれまでに様々な切除方法が提案・議論されてきた。我々は、従来の切除方法にはない新しい特徴を有する「バタフライ切除」を提唱・臨床応用してきた。23年度の米国胸部外科学会においてこれまでの臨床成果を口頭発表し、その内容は当分野の主要ジャーナルに採択された。

医療技術名	弓部大動脈置換術の末梢側吻合における独自の工夫による視野展開	取扱患者数	30人
-------	--------------------------------	-------	-----

当該医療技術の概要(心臓血管外科)
弓部大動脈置換術の大動脈末梢側吻合は視野が深く狭いため技術的に困難な手技のひとつである。この末梢側吻合を確実に行うことが出血の少ない短時間の手術、つまり患者負担の少ない手術に必須である。我々は、既製のデバイスを独自の工夫で用いることでより良好な視野を得、確実な末梢側吻合を行い、安定した良好な成績を残してきた。その成果を国内の主要学会で発表を行い、定評を得ている。

医療技術名	進行肺癌術後補助化学療法	取扱患者数	15人
-------	--------------	-------	-----

当該医療技術の概要(呼吸器外科) 病理病期 I B・II・III A 期非小細胞肺癌完全切除例に対する術後補助化学療法としてのDocetaxel+Nadaplatin併用療法の第 II 相臨床試験			
医療技術名	進行肺癌に対する術前導入化学放射線療法	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要(呼吸器外科) III A 期(c/p N2)非小細胞肺癌に対するDocetaxel+Nedaplatinを用いた術前導入化学放射線療法+手術療法の第 II 相試験			
医療技術名	覚醒下手術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要(脳神経外科) 脳神経外科手術の際に覚醒させることで、脳機能の評価を行いながら同時に手術を進めることができるため、神経機能を温存しつつ、最大限の脳腫瘍摘出などが可能になる。			
医療技術名	5-アミノレブリン酸投与による術中蛍光診断	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要(脳神経外科) 手術当日の朝に5-アミノレブリン酸を内服させることで、青紫光により腫瘍細胞は赤色蛍光を呈し、術中に脳腫瘍がどこに存在、残存するかを確認することが可能となる。このため脳腫瘍を最大限摘出することができ、予後の改善につながる。			
医療技術名	脳血管内手術における、塞栓物質NBCAを用いた塞栓術	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要(脳神経外科) 脳血管内手術において、NBCAを用いることにより、脳腫瘍やAVMの栄養血管を塞栓し、病変の摘出術の際の出血を最小限に抑えることが可能になる。			
医療技術名	若年女性悪性腫瘍の妊孕性および卵巣機能温存を志向した卵巣組織凍結	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要(母子・女性診療科) 若年女性悪性腫瘍患者に対し、治療前に卵巣を摘出し、凍結保存する。治療後、凍結しておいた卵巣を融解して元の体内に移植する方法である。			
医療技術名	体外受精胚移植法	取扱患者数	226人
当該医療技術の概要(母子・女性診療科) 採卵により体外に卵子を取り出し、体外で精子と授精させ、胚(受精卵)を培養し、形成された胚を子宮腔に移植する方法である。			
医療技術名	顕微授精	取扱患者数	77人
当該医療技術の概要(母子・女性診療科) 乏精子症などに施行する技術。体外受精の1種で(体外受精から独立しているという考えもある)精子を直接卵子に注入する方法である。			
医療技術名	網膜疾患に対するbevacizumab硝子体内投与の治療効果	取扱患者数	508人
当該医療技術の概要(眼科) 糖尿病網膜症、網膜静脈閉塞症、新生血管黄斑症の中で眼内新生血管、黄斑浮腫を有する症例には有効な治療法がない。そのような難治性症例に対し、抗VEGF薬(bevacizumab)を硝子体内に投与し、治療効果の検討を行う。			
医療技術名	核磁気共鳴スペクトロスコピーを用いた非侵襲的に脳内グルタミン酸、GABA測定による痛みの脳機能評価法の確立	取扱患者数	25人
当該医療技術の概要(ペインクリニック科) 核磁気共鳴スペクトロスコピーを用いて、前帯状回、前頭前野において、神経機能の指標であるNアスパラギン酸、抑制系神経機能の指標であるGABA、興奮性神経機能の指標であるグルタミン酸などの脳代謝物質を測定することにより、患者に負荷をかけない機能的脳画像評価から慢性疼痛患者の評価への応用を試みる。文部科研、核磁気共鳴スペクトロスコピーを用いた非侵襲的に脳内グルタミン酸、GABA測定による痛みの脳機能評価法の確立、の医療技術開発である。			
医療技術名	椎間板性腰痛に対する高周波熱凝固法	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要(ペインクリニック科) 難治性の椎間板性疼痛に対し、X線透視下に椎間板専用の電極針を挿入し、椎間板内内部に入りこんだ神経を高周波熱凝固法、パルス高周波法で治療し、鎮痛を図る。			
医療技術名	難治性疼痛に対するラツツカテーテル治療	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要(ペインクリニック科) 硬膜外口腔、神経根の癒着が原因となっている難治性の脊椎手術後疼痛に対し、X線透視下に専用のスプリングコイルカ			

アブレルを仙骨裂孔もしくは椎間孔から挿入し、化学的伸縮剥離術を行うことで、鎮痛を図る。硬膜外伸縮形成術として日本ペインクリニック学会から新規手術、また他施設共同で滋賀医大からも高度先進医療申請を検討中である。			
医療技術名	仙腸関節性、椎間関節性腰痛に対する高周波熱凝固法、パルス高周波法	取扱患者数	23人
当該医療技術の概要(ペインクリニック科) 難治性の仙腸関節性腰痛、椎間関節性腰痛に対し、X線透視下に専用の電極針を挿入し、腰痛の原因となる神経を高周波熱凝固法、パルス高周波法で治療し、鎮痛を図る。			
医療技術名	慢性疼痛の多面的評価システムの開発と客観的評価法の確立	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要(ペインクリニック科) 慢性疼痛患者に対する心理、社会的背景を含めた問診表を開発し、全国共通問診表の妥当性を検討する多施設共同研究。機能的脳画像診断法である核磁気共鳴スペクトロスコピー(MRS)、形態学的診断法であるvoxel-based morphometry(VBM)の慢性痛の評価としての妥当性、有用性を評価する他施設共同研究。MRS,VBMに関しては当科が中心となって技術開発、技術指導を行っている。厚生労働省、慢性の痛み対策事業、厚労科研の一環の研究事業である。			
医療技術名	慢性の痛みのより高度な診療の為の医療システム構築	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要(ペインクリニック科) 難治性慢性疼痛の診療において、脊椎外科、リハビリテーション科、理学療法士、神経内科、精神科、臨床心理士、などと定期的にカンファレンスを行い、多方面から評価を行い、リエゾン治療を行う、全国11施設での痛みセンター設立をめざした厚生労働省の指定研究事業における診療システムの開発、構築である。厚生労働省、慢性の痛み対策研究事業、慢性の痛み診療の基盤となる情報の集約とより高度な診療の為の医療システム構築に関する研究、である。			
医療技術名	voxel-based morphometry(VBM)を用いた機能的脳画像評価法	取扱患者数	23人
当該医療技術の概要(ペインクリニック科) 3D-MRIを応用、脳内組織の容積を直接測定するVBMの、滋賀医大で開発したソフト(VAAD)を用いて、超高速で脳の局所の体積、灰白質密度を測定する形態学的脳画像診断法。脳内の情動処理系の部位、内因性鎮痛系に関連する部位の委縮程度を測定する。当科が中心して技術開発、技術指導を行っている。厚生労働省、慢性の痛み対策事業、厚労科研の一環の研究事業である。			
医療技術名	Decompressor(経皮的髄核摘出プローブ)を用いた臨床評価	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要(ペインクリニック科) 神経ブロック針と同じ太さの経皮的髄核摘出プローブ(Decompressor)を用いて、'経皮的髄核摘出術を行う低新襲治療技術開発である。多施設共同研究でペインクリニックではNNT東日本関東病院と共同研究を行った。			
医療技術名	滋賀県における心臓リハビリテーションの指導	取扱患者数	
当該医療技術の概要(リハビリ科) 滋賀県では、心臓リハビリテーションは未だ一般市中病院に於いては十分に施行されていない。県内に心臓リハビリを普及させる目的で、県内の病院からの研修や講習を行っている。			
医療技術名	敗血症性DICによる多臓器障害の凝固学的検討と血液浄化法の有効性の検討	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要(救急・集中治療部) 敗血症は高頻度にDICを併発し、その場合多臓器障害となることが知られている。この病態において、敗血症による凝固活性化によるDICと、これに伴う微小循環障害、さらに高サイトカインあるいはエンドトキシンにより多臓器障害が発症するものと考えられている。よって、この病態に対する治療として、敗血症の原因治療に加え、嚴重なDICの管理と高サイトカインやエンドトキシンに対する対策が必要と思われる。そのためには、迅速かつ詳細な凝固学的検査とサイトカイン除去法が必須である。我々は、本院中央検査部とともにLPPIA法による測定法の開発と設定を行い、またサイトカインあるいはエンドトキシン除去に対し、積極的に持続的血液濾過法やエンドトキシン吸着法、されに我々開発したPlasma Filtration with Dialysis(PFD)療法を施行し、的確な診断と病態解析、およびその治療を行い、世界標準データである院内死亡率49.6%に対し、24.4%と優秀な生存率を示している。			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	22人	・膿疱性乾癬	7人
・多発性硬化症	17人	・広範脊柱管狭窄症	9人
・重症筋無力症	37人	・原発性胆汁性肝硬変	42人
・全身性エリテマトーデス	99人	・重症急性膵炎	13人
・スモン	1人	・特発性大腿骨頭壊死症	51人
・再生不良性貧血	14人	・混合性結合組織病	16人
・サルコイドーシス	30人	・原発性免疫不全症候群	0人
・筋萎縮性側索硬化症	14人	・特発性間質性肺炎	11人
・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎	68人	・網膜色素変性症	16人
・特発性血小板減少性紫斑病	38人	・プリオン病	0人
・結節性動脈周囲炎	16人	・肺動脈性肺高血圧症	8人
・潰瘍性大腸炎	362人	・神経線維腫症	9人
・大動脈炎症候群	7人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ビュルガー病	5人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	1人
・天疱瘡	23人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	1人
・脊髄小脳変性症	29人	・ライソゾーム病	3人
・クローン病	146人	・副腎白質ジストロフィー	1人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	0人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	3人	・脊髄性筋萎縮症	1人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	62人	・球脊髄性筋萎縮症	2人
・アミロイドーシス	5人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	6人
・後縦靭帯骨化症	30人	・肥大型心筋症	4人
・ハンチントン病	2人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウイリス動脈輪閉塞症)	11人	・ミトコンドリア病	4人
・ウェゲナー肉芽腫症	7人	・リンパ管筋腫症(LAM)	0人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	55人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	3人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリーブ橋小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	17人	・黄色靭帯骨化症	6人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	0人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、ADH分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	31人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
先天性QT延長症候群の家族内調査による遺伝的多様性の検討と治療指針の決定	堀江 稔	循環器内科	11,700,000	③補委 厚生労働科学研究費補助金
早期再分極(early repolarization)症候群の病態と遺伝基盤、長期予後に関する研究	堀江 稔	循環器内科	1,300,000	③補委 厚生労働科学研究費補助金
遺伝性不整脈疾患の遺伝子基盤に基づいた病態解明と診断・治療法の開発に関する研究	堀江 稔	循環器内科	4,000,000	③補委 厚生労働科学研究費補助金
大規模コホートをを用いた急性心筋梗塞における早期灌流療法に向けた医療連携システム構築と効果的な患者教育のためのエビデンス構築に関する研究	堀江 稔	循環器内科	500,000	③補委 厚生労働科学研究費補助金
遺伝性不整脈発症の分子基盤に関する統合的研究	堀江 稔	循環器内科	6,110,000	③補委 文部科学省科学研究費
不整脈疾患における先制医療としての遺伝子診断と機能解析の開発	堀江 稔	循環器内科	20,000,000	③補委 日本循環器学会
ヒト両心房モデル構築を基盤とした慢性心房細動とその治療に関するインシリコ研究	芦原 貴司	循環器内科	700,000	③補委 文部科学省科学研究費
心臓二次元膜電位工学マッピングデータからの心壁内3次元興奮伝播波面の再構成	芦原 貴司	循環器内科	200,000	③補委 文部科学省科学研究費
医学と工学の連携による電気生理学的心臓突然死予知指標の開発	芦原 貴司	循環器内科	200,000	③補委 文部科学省科学研究費
多階層データに基づく心臓電気現象の統合的機能シミュレーション	芦原 貴司	循環器内科	260,000	③補委 文部科学省科学研究費
運動ストレスによるQT延長症候群患者の不整脈発症のメカニズムの解明	大野 聖子	循環器内科	5,330,000	③補委 文部科学省科学研究費
難治性疾患克服研究事業 呼吸不全に関する調査研究	中野 恭幸	呼吸器内科	600,000	③補委 厚生労働科学研究費補助金
計算解剖モデルに基づく診断支援	中野 恭幸	呼吸器内科	500,000	③補委 厚生労働科学研究費補助金
慢性閉塞性肺疾患と冠動脈動脈硬化の共通リスク要因に関する国際比較	中野 恭幸	呼吸器内科	200,000	③補委 厚生労働科学研究費補助金
慢性閉塞性肺疾患 (COPD) 患者における胸部CTデータを用いた骨密度・骨粗鬆症の評価	中野 恭幸	呼吸器内科	800,000	③補委 (財)骨粗鬆症財団
Decton-1を介した樹状細胞制御に基づく炎症性腸疾患の病態解明と治療薬の開発	藤山 佳秀	消化器内科	500,000	③補委 文部科学省科学研究費
画期的中和抗体定量法を用いたクローン病の生物学的製剤個別化投与アルゴリズムの構築	安藤 朗	消化器内科	2,080,000	③補委 文部科学省科学研究費
クローン病線維性狭窄の危険因子解明	辻川 知之	消化器内科	1,560,000	③補委 文部科学省科学研究費

小計

18

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
筋線維芽細胞制御に基づく腸管上皮細胞再生機構の開発の基礎的検討	馬場 重樹	消化器内科	1,560,000	補委 文部科学省科学研究費
MRP4遺伝子多型解析による炎症性腸疾患に対するテーラーメイド免疫療法の構築	伴 宏充	消化器内科	1,950,000	補委 文部科学省科学研究費
難治性炎症性腸管障害に関する調査研究	藤山 佳秀	消化器内科	1,000,000	補委 厚生労働省科学研究費補助金
腸管不全に対する小腸移植技術の確立に関する研究	藤山 佳秀	消化器内科	500,000	補委 厚生労働省科学研究費補助金
新規内臓脂肪量マーカーの臨床応用	卯木 智	糖尿病内分泌内科	1,100,000	補委 文部科学省科学研究費
肝臓特異的O-結合型糖修飾転移酵素欠損マウスの、果糖摂取による代謝異常への影響	関根 理	糖尿病内分泌内科	1,500,000	補委 文部科学省科学研究費
脂肪組織でのオートファジーの役割	吉崎 健	糖尿病内分泌内科	2,100,000	補委 文部科学省科学研究費
糖尿病における魚食の有効性に関する研究	近藤 慶子	糖尿病内分泌内科	1,500,000	補委 文部科学省科学研究費
2型糖尿病患者を対象とした血管合併症抑制のための強化療法と従来治療とのランダム化比較試験	前川 聡	糖尿病内分泌内科	2,300,000	補委 J-DOIT3(糖尿病合併症を抑制するための介入試験)
メタボリック・シンドローム関連疾患における個別化医療の実現(新規2型糖尿病関連遺伝子の同定と機能解析)	前川 聡	糖尿病内分泌内科	900,009	補委 文部科学省研究振興局
骨格筋における脂肪酸流入によるミトコンドリアバイオジェネシスの分子構造	森野 勝太郎	糖尿病内分泌内科	3,000,000	補委 公益財団法人武田科学振興財団
DPP-4阻害薬シタグリプチンの血管内皮機能への影響	吉崎 健	糖尿病内分泌内科	1,078,000	補委 財団法人地域医学研究基金
リポファジーが飢餓応答へ果たす役割	近藤 基之	糖尿病内分泌内科	450,000	補委 公益財団法人日本応用酵素協会
腎尿管細胞オートファジーを標的とした慢性腎臓病におけるメカニズムの解明	宇津 貴	腎臓内科	800,000	補委 文部科学省科学研究費
糖尿病血管合併症の克服に向けた治療戦略構築のための早期血小板活性異常の臨床的意義	荒木 信一	腎臓内科	1,600,000	補委 文部科学省科学研究費
肥満・加齢に関連した慢性腎臓病悪化進展因子の同定	久米 真司	腎臓内科	1,200,000	補委 文部科学省科学研究費
糸球体上皮細胞でのSIRTファミリー制御による糖尿病腎症に対する新たな治療戦略	田中 敬	腎臓内科	1,600,000	補委 文部科学省科学研究費
2型糖尿病患者における仮面高血圧・早期高血圧に及ぼす食塩の過剰摂取及び極端な減塩の影響と動脈硬化病変の進展について	宇津 貴	腎臓内科	900,000	補委 ソルトサイエンス財団
糖尿病生腎症の尿管障害進展機構における尿管細胞オートファジーの役割	久米 真司	腎臓内科	1,000,000	補委 公益財団法人万有生命科学進行国際交流財団
腎脂肪毒性に着目した治療抵抗性糖尿病性腎症に対する新規治療戦略の開発	久米 真司	腎臓内科	1,000,000	補委 公益財団法人大和証券ヘルス財団

小計

20

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
飢餓時脂肪酸代謝における哺乳類オートファジーの臓器間ネットワークの解明	久米 真司	腎臓内科	3,000,000	補委 公益財団法人持田記念医学薬学振興財団
新規慢性腎臓病関連遺伝子の同定ならびに機能解析	久米 真司	腎臓内科	1,000,000	補委 公益財団法人鈴木謙三記念医科学応用研究財団
治療抵抗性糖尿病性腎症に対する新規治療戦略の開発	久米 真司	腎臓内科	1,000,000	補委 財団法人日本糖尿病財団
COMT阻害薬投与により惹起される代謝異常全体像の把握	金 一暁	神経内科	1,800,000	補委 文部科学省科学研究費
組織特異的ペプチドを用いた神経疾患への分子治療法および体外イメージングの開発	寺島 智也	神経内科	900,000	補委 文部科学省科学研究費
がんの病勢制御と健康寿命延長に寄与する統合的分子病態診断システムの開発	醍醐 弥太郎	腫瘍内科	7,930,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
遺伝素因による発癌病態の解明と癌予防に向けた創薬開発	醍醐 弥太郎	腫瘍内科	1,170,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
標準療法不応の肺がんにも有効な新規がんペプチドワクチン療法の開発と創薬展開	醍醐 弥太郎	腫瘍内科	200,000,000	補委 厚生労働省科学研究費補助金
がん研究分野の特性等を踏まえた支援活動	醍醐 弥太郎	腫瘍内科	39,000,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
肺がんの新規診断マーカー、治療標的分子の機能解析、開発	高野 淳	腫瘍内科	1,950,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
小児固形腫瘍領域で欧米臨床導入済みの国内適応外抗腫瘍薬のエビデンス確立のための研究	多賀 崇	小児科	15,600,000 (研究者一括計上)	補委 厚生労働省科学研究費補助金
小児急性骨髄性白血病(AML)に対する標準的治療法の確立	多賀 崇	小児科	18,000,000 (研究者一括計上)	補委 厚生労働省科学研究費補助金
遺伝性貧血の病態解明と診断法の確立に関する研究	多賀 崇	小児科	500,000	補委 厚生労働省科学研究費補助金
母乳性黄疸の発症予防のための遺伝子転写機構の解明のための研究	松井 克之	小児科	1,950,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
汎用MRを使う生体内部構造透視画像下内視鏡手術システムの開発	谷 徹	消化器・乳腺・一般外科	4,296,000	補委 (独) 科学技術振興機構研究成果最適展開支援事業(A-STEP)
体腔鏡手術ロボティク技術が拓く高度先進医療の研究開発	谷 徹	消化器・乳腺・一般外科	48,000,000	補委 文部科学省 都市エリア産学官連携促進事業
マイクロ波実質臓器凝固切断器の開発	谷 徹	消化器・乳腺・一般外科	2,730,000	補委 復興促進プログラムマッチング促進事業
携帯可能な小型・省力型マイクロ波手術機器の開発	谷 徹	消化器・乳腺・一般外科	37,357,000	補委 課題解決型医療機器等開発事業
戦略的イノベーション創出推進プログラムJST/LAP陽性制御性T細胞およびTGF-βに対する選択除去材の創製およびがんの革新的治療法への応用	谷 徹 (分担)	消化器・乳腺・一般外科	2,000,000	補委 (独) 科学技術振興機構 産学基礎基盤推進部

小計

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
操作性に優れた静脈穿刺用超音波探触子の開発	塩見 尚礼	消化器・ 乳腺・一般外科	390,000	補委 (独) 科学技術振興機構研究成果最適展開支援事業(A-STEP)
高感度迅速なエンドトキシン測定法を用いた透析液の新しい品質管理手法	小幡 徹	消化器・ 乳腺・一般外科	390,000	補委 (独) 科学技術振興機構研究成果最適展開支援事業(A-STEP)
アディポネクチンによる新しい敗血症の治療法の開発	山本 寛	消化器・ 乳腺・一般外科	920,000	補委 文部科学省科学研究費
新しいエンドトキシン測定法による敗血症の評価	清水 智治	消化器・ 乳腺・一般外科	1,000,000	補委 文部科学省科学研究費
拡張現実を用いたMR画像支援下内視鏡手術システムの開発	仲 成幸	消化器・ 乳腺・一般外科	780,000	補委 文部科学省科学研究費
毛髪内微量元素解析を用いた乳癌スクリーニング法に関する研究	張 弘富	消化器・ 乳腺・一般外科	780,000	補委 文部科学省科学研究費
出血性ショック後の循環動態への末梢神経の関与とその制御	赤堀 浩也	消化器・ 乳腺・一般外科	520,000	補委 文部科学省科学研究費
座位MRIによる下骨盤底筋群および直腸肛門機能評価	遠藤 善裕	消化器・ 乳腺・一般外科	700,000	補委 文部科学省科学研究費
CTLと制御性T細胞の同時機能調節と分化抑制による、癌特異的CTL細胞療法の樹立	村田 聡	消化器・ 乳腺・一般外科	2,080,000	補委 文部科学省科学研究費
生活習慣病を合併する病的肥満症患者に対する減量手術の費用便益分析	山本 寛 (分担)	消化器・ 乳腺・一般外科	100,000	補委 文部科学省科学研究費
がん対策における管理指標群を算定するための既存データに可能性に関する研究	目片 英治 (分担)	腫瘍センター	500,000	補委 厚生労働科学研究費補助金
骨髄由来未分化間葉系細胞を用いた肩腱板断裂の非侵襲的治療の試み	松末 吉隆	整形外科	1,820,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
力学的ストレス下における軟骨細胞間応答	今井 晋二	整形外科	1,040,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
脊柱靭帯骨化症に関する調査研究	森 幹士	整形外科	1,500,000	補委 厚生労働科学研究費補助金
末梢神経修復時における、自家骨髄細胞が産生する脳由来神経栄養因子の重要性の解析	森 幹士	整形外科	1,300,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
脳動脈瘤に対する非外科的治療法開発のための橋渡し研究	野崎 和彦	脳神経外科	6,110,000	補委 日本学術振興会
未破裂脳動脈瘤の各磁気共鳴生体イメージングによる追跡と破裂予測システムの構築	野崎 和彦	脳神経外科	1,170,000	補委 日本学術振興会
滋賀県地域医療再生計画(三次医療圏)脳卒中診療連携体制整備事業	柏木 厚典	脳神経外科	99,100,000	補委 滋賀県
「好酸球性副鼻腔炎・中耳炎に対する抗凝固因子に注目した新たな局所治療薬の開発」に関する研究	清水 志乃	耳鼻咽喉科	910,000	補委 日本学術振興会科学研究費補助金
「TSLP、IL-25、IL-33による鼻副鼻腔炎疾患誘導のメカニズム」に関する研究	神前 英明	耳鼻咽喉科	1,040,000	補委 日本学術振興会科学研究費補助金

小計

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
「好酸球と鼻粘膜構成細胞の相互作用からみた好酸球性鼻副鼻腔炎の病態と新治療法の開発」に関する研究	清水 猛史	耳鼻咽喉科	1,300,000	③補委 日本学術振興会科学研究費補助金
「難治性上気道炎症性疾患に対する新規治療薬の開発に向けたヘパリンの抗炎症作用の解析」に関する研究	小河 孝夫	耳鼻咽喉科	1,430,000	③補委 日本学術振興会科学研究費補助金
カニクイザルを用いた卵巣臓器全体の凍結技術確立	清水 良彦	母子・女性診療科	1,430,000	③補委 文部科学省科学研究費補助金
カニクイザルを用いた全卵巣組織の凍結融解技術の確立	竹林 明枝	母子・女性診療科	2,470,000	③補委 文部科学省科学研究費補助金
過活動膀胱発症におけるプロスタグランジン受容体サブタイプEP4の役割	荒木 勇雄	泌尿器科	2,210,000	③補委 文部科学省科学研究費補助金
ヒト胎児性癌新規マーカーDNMT3Lの機能解析とその臨床応用	岡本 圭生	泌尿器科	5,460,000	③補委 文部科学省科学研究費補助金
新規癌関連タンパク質GGCTを標的としたRNA干渉による尿路上皮癌治療の開発	影山 進	泌尿器科	2,080,000	③補委 文部科学省科学研究費補助金
下部尿路機能障害における脊髄グリア細胞を介した中枢性感作メカニズムの関与	水流 輝彦	泌尿器科	2,080,000	③補委 文部科学省科学研究費補助金
網膜疾患における血管新生抑制性ペプチドVEGF165bの病態解析と治療法の開発	大路 正人	眼科	2,990,000	③補委 文部科学省科学研究費補助金
読書が可能な人工視覚システム（脈絡膜上-経網膜電気刺激（STS）法）の実用化	大路 正人	眼科	1,000,000	③補委 厚生労働科学研究費補助金
標的指向性リポソームを用いた網膜静脈閉塞症の病態解明と薬物治療の開発	西信 良嗣	眼科	2,470,000	③補委 文部科学省科学研究費補助金
虚血再灌流傷害に対する吸入麻酔薬の心筋保護作用に関わる分子基盤の解明	小嶋 亜希子	麻酔科	1,690,000	③補委 独立行政法人日本学術振興会
心筋虚血再灌流時のプログラム細胞死モニタリングと麻酔薬による制御	山崎 登自	麻酔科	1,300,000	③補委 独立行政法人日本学術振興会
吸入麻酔薬の心保護効果（一過性受容器電位チャネルの役割解明とその応用）	北川 裕利	麻酔科	1,560,000	③補委 独立行政法人日本学術振興会
干渉増幅反射式センサーを用いた吸入麻酔薬濃度モニタリング装置の開発	今宿 康彦	麻酔科	650,000	③補委 独立行政法人日本学術振興会
慢性疼痛の多面的評価システムの開発と客観的評価法の確立に対する研究	福井 聖	ペインクリニック科	500,000	③補委 厚生労働科学研究費補助金
慢性の痛み診療の基盤となる情報の集約とより高度な診療の為の医療システム構築に関する研究	福井 聖	ペインクリニック科	500,000	③補委 厚生労働科学研究費補助金
核磁気共鳴スペクトロスコーピーを用いた非侵襲的に脳内グルタミン酸、GABA測定による痛みの脳機能評価法の確立	福井 聖	ペインクリニック科	1,000,000	③補委 文部科学研究費補助金
320列MDCTを用いた局所肺機能評価法の開発に関する研究	村田 喜代史	放射線科	1,300,000	③補委 日本学術復興会
高速核磁気共鳴画像を用いた腸管蠕動運動の定量解析および腸管機能診断への臨床応用	古川 顕	放射線科	1,170,000	③補委 日本学術復興会

小計

20

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
血管新生阻害薬の多剤併用療法における低侵襲in vivo画像評価法の構築	大田 信一	放射線科	1,170,000	補委 日本学術復興会
320列CTと二酸化炭素を用いた肝腫瘍栄養血管描出技術の開発	園田 明永	放射線科	780,000	補委 日本学術復興会
マンナン添加超常磁性酸化鉄ナノ粒子を用いた動脈硬化診断法の確立	大谷 秀司	放射線科	1,300,000	補委 日本学術復興会
計算解剖モデルに基づく診断支援	高橋 雅士	放射線科	500,000	補委 文部科学研究費補助金
超常磁性酸化鉄粒子の粒子径、表面性状の違いによる生体内動態と動脈硬化病変および腫瘍への取り込みの検討；核磁気共鳴画像(磁化率)および組織学的評価	友澤 裕樹	放射線科	1,000,000	補委 日本医学放射線学会
動脈硬化を伴う敗血症の病態と治療法の確立；プロスタグランジンD合成酵素の動態	山根 哲信	救急・集中治療部	1,600,000	補委 文部科学研究費補助金
腎尿細管細胞オートファジーを標的とした慢性腎臓病におけるメカニズムの解明	宇津 貴	血液浄化部	800,000	補委 文部科学省科学研究費
2型糖尿病患者における仮面高血圧・早期高血圧に及ぼす食塩の過剰摂取及び極端な減塩の影響と動脈硬化病変の進展について	宇津 貴	血液浄化部	900,000	補委 ソルトサイエンス財団
炎症性腸疾患患者のエネルギー代謝に関する臨床的研究	佐々木 雅也	栄養治療部	1,300,000	補委 文部科学省科学研究費
小児薬物療法の実態調査の研究（小児等の特殊患者に対する医薬品の適正使用に関する研究（主任研究者：伊藤進）の分担研究）	中川 雅生	臨床研究開発センター	500,000	補委 厚生労働科学研究費補助金
オーダーメイド医療実現化プロジェクト	中川 雅生	臨床研究開発センター	15,930,000	補委 文部科学省研究振興局
新規経口分子標的抗がん剤の体内動態・薬効の個体差解明に基づく投与アルゴリズム確立	寺田 智祐	薬剤部	3,900,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
薬物輸送学と腸管免疫学の融合に基づいた炎症性腸疾患の新規薬物治療戦略	寺田 智祐	薬剤部	1,820,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
冠動脈疾患危険因子スフィンゴミエリンの超高感度血中濃度測定法の確立	森田 真也	薬剤部	530,000	補委 科学技術振興機構
高尿酸血症の個別化薬物療法の確立	寺田 智祐	薬剤部	2,000,000	補委 公益財団法人 臨床薬理研究振興財団
網羅的全リン脂質酵素蛍光定量法の開発とバイオマーカー探索	森田 真也	薬剤部	800,000	補委 公益財団法人 薬学研究奨励財団

小計

16

計

113

(注)1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

(注)2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

(注)3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Journal of Pharmacological Sciences. 119(1): 52-63, 2012.	Pharmacological blockade of IKs destabilizes spiral-wave reentry under β -adrenergic stimulation in favor of its early termination.	Horie M et al.	循環器内科
Cardiovascular Research. 93(4): 666-673, 2012.	A novel gain-of-function KCNJ2 mutation associated with short QT syndrome impairs inward rectification of Kir2.1 currents.	Horie M et al.	循環器内科
Circulation Cardiovascular Genetics. 5: 344-353, 2012.	Phenotype variability in patients carrying KCNJ2 mutations.	Horie M et al.	循環器内科
Circulation Research. 110(2): 275-284, 2012.	The role of fibroblasts in complex fractionated electrograms during persistent/permanent atrial fibrillation implications for electrogram-based catheter ablation.	Horie M et al.	循環器内科
Heart Rhythm. 9(1): 66-74, 2012.	Clinical and electrocardiographic characteristics of patients with short QT interval in a large hospital-based population.	Horie M et al.	循環器内科
BMC Cancer. 2012, 12:27 doi:10.1186/1471-2407-12-27	Risk factors associated with fatal pulmonary hemorrhage in locally advanced non-small cell lung cancer treated with chemoradiotherapy.	Ito M et al.	呼吸器内科
Chest. 42(1): 151-158, 2012.	Prognostic impact of cancer-associated stromal cells in stage I lung adenocarcinoma patients.	Ito M et al.	呼吸器内科
Allergol Int. 61(1): 123-132, 2012.	Cough triggers and their pathophysiology in patients with prolonged or chronic cough.	Yamaguchi M et al.	呼吸器内科
J Thorac Oncol. 7(3): 503-511, 2012.	Number of circulating endothelial progenitor cells and intratumoral microvessel density in non-small cell lung cancer patients: differences in angiogenic status between adenocarcinoma histologic subtypes.	Ito M et al.	呼吸器内科
Respiration. 83(4): 308-315, 2012.	Clinical, physiological and anti-inflammatory effect of montelukast in patients with cough variant asthma.	Yamaguchi M et al.	呼吸器内科
Respiratory Research. 2012, 13:31 doi:10.1186/1465-9921-13-31	Emphysema distribution and annual changes in pulmonary function in male patients with chronic obstructive pulmonary disease.	Ogawa E et al.	呼吸器内科
COPD. 9(4): 401-408, 2012.	Computed tomography assessment of pharmacological lung volume reduction induced by bronchodilators in COPD.	Ogawa E et al.	呼吸器内科
Respiration. 83: 507-519, 2012.	Sputum YKL-40 levels and pathophysiology of asthma and chronic obstructive pulmonary disease.	Yamaguchi M et al.	呼吸器内科
Respir Investig. 50(3): 78-87, 2012.	Recent findings in chronic obstructive pulmonary disease by using quantitative computed tomography.	NV Tho et al.	呼吸器内科

小計

14

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Cancer Chemother Pharmacol. 70(4): 531-537, 2012.	A phase II study of docetaxel plus nedaplatin in patients with metastatic non-small-cell lung cancer.	Nakano Y et al.	呼吸器内科
Am J Med Sci. 344(5): 414-415, 2012.	A case of pulmonary cholesterol granuloma: an (18)F-fluorodeoxyglucose positron emission tomography image.	Nakano Y et al.	呼吸器内科
Digestive Disease Science. 57(2):327-334, 2012	The severity of dextran sodium sulfate-induced colitis can differ between dextran sodium sulfate preparations of the same molecular weight range.	Bamba S et al.	消化器・血液内科
Journal of Gastroenterology. 47(2):136-143, 2012	Development of a new immunoassay for the accurate determination of anti-infliximab antibodies in inflammatory bowel disease	Imaeda H et al.	消化器・血液内科
Pancreas. 41(3):422-427, 2012	Pancreatic stellate cells do not exhibit features of antigen-presenting cells.	Imaeda H. et al	消化器・血液内科
Digestion. 86(3):250-257, 2012	Terminal-restriction fragment length polymorphism (T-RFLP) analysis for changes in the gut microbiota profiles of indomethacin-and rebamipide-treated mice	Imaeda H et al.	消化器・血液内科
Gastroenterology. 142(4):865-874, 2012	The membrane-bound mucin Mucl regulates T helper 17-cell responses and colitis in mice.	Nishida A et al.	消化器・血液内科
The Journal of Experimental Medicine. 209(13):2383-2394, 2012	Inducible colitis-associated glycome capable of stimulating the proliferation of memory CD4+ T cells	Nishida A et al.	消化器・血液内科
International Journal Experimental Pathology. 93(2):130-138, 2012	Bone marrow-derived cells contribute to cerulein-induced pancreatic fibrosis in the mouse.	Inatomi O et al.	消化器・血液内科
Molecular Therapy. 20(6):1234-1241, 2012	A new therapeutic approach using a schizophyllan-based drug delivery system for inflammatory bowel disease.	Fujiyama Y. et al	消化器・血液内科
Digestion. 86(2):129-135, 2012	Terminal restriction fragment length polymorphism analysis of the gut microbiota profiles of pediatric patients with inflammatory bowel disease.	Aomatsu T et al.	消化器・血液内科
The Journal of Immunology. 189(9):4546-4555, 2012	C/EBP β is involved in the amplification of early granulocyte precursors during candidemia-induced "emergency" granulopoiesis.	Hayashi Y et al.	消化器・血液内科
Journal of Gastroenterology. 47(12):1298-1307, 2012	Multicenter analysis of fecal microbiota profiles in Japanese patients with crohn's disease.	Andoh A et al.	消化器・血液内科
Diabetes. 2012 Apr;61(4):877-87. doi: 10.2337	Regulation of mitochondrial biogenesis by lipoprotein lipase in muscle of insulin-resistant offspring of parents with type 2 diabetes.	Morino K et al.	糖尿病内分泌内科
Am J Physiol Endocrinol Metab. 2012 Dec 15;303(12):E1419-27. doi: 10.1152	MicroRNA-494 regulates mitochondrial biogenesis in skeletal muscle through mitochondrial transcription factor A and Forkhead box j3.	Yamamoto H et al.	糖尿病内分泌内科
Biochem Biophys Res Commun. 2013 Jan 4;430(1):225-30. doi: 10.1016	Omega-3 polyunsaturated fatty acid has an anti-oxidant effect via the Nrf-2/HO-1 pathway in 3T3-L1 adipocytes.	Kusunoki C et al.	糖尿病内分泌内科

小計

16

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Am J Hypertens. 2012 Nov;25(11):1170-4. doi: 10.1038	High Sodium Intake is Associated With Masked Hypertension in Japanese Patients With Type 2 Diabetes and Treated Hypertension.	Uzu T et al.	腎臓内科
Geriatr Gerontol Int. 2012 Apr;12 Suppl 1:127- 33. doi: 10.1111	Factors associated with progression of diabetic nephropathy in Japanese elderly patients with type 2 diabetes: sub-analysis of the Japanese Elderly Diabetes Intervention Trial.	Araki S et al.	腎臓内科
J Diabetes Investig. 2012 Jun;3(3):318-324	Association between urinary angiotensinogen levels and renal and cardiovascular prognoses in patients with type 2 diabetes mellitus.	Sawaguchi M et al.	腎臓内科
Clin Exp Nephrol. 2012 Dec;16(6):827-32. doi: 10.1007	Autophagy: a novel therapeutic target for kidney diseases.	Kume S et al.	腎臓内科
Diabetes Care. 2013 May;36(5):1248-53. doi: 10.2337	Predictive Effects of Urinary Liver- Type Fatty Acid-Binding Protein for Deteriorating Renal Function and Incidence of Cardiovascular Disease in Type 2 Diabetic Patients Without Advanced Nephropathy.	Araki S et al.	腎臓内科
International Journal of Oncology. Oct;41(4):1285-96 2012	Identification of a novel oncogene, MMS22L, involved in lung and esophageal carcinogenesis.	Daigo Y et al.	腫瘍内科
Cancer Research. 72(16):4110-8 2012	Critical function for nuclear envelope protein TMEM209 in human pulmonary carcinogenesis.	Daigo Y et al.	腫瘍内科
Journal of Surgical Oncology. 106(4):423-30 2012	Overexpression of CDC20 predicts poor prognosis in primary non-small cell lung cancer patients.	Daigo Y et al.	腫瘍内科
Clinica Chimica Acta. 417:48-53 2013	Reevaluation of a lectin antibody ELISA kit for measuring fucosylated haptoglobin in various conditions.	Daigo Y et al.	腫瘍内科
Nature Communications. 3:1072 2012	Enhanced HSP70 lysine methylation promotes proliferation of cancer cells through activation of Aurora kinase B	Daigo Y et al.	腫瘍内科
Nature Genetics. 44(8):900-3 2012	A genome-wide association study identifies two new susceptibility loci for lung adenocarcinoma in the Japanese population.	Daigo Y et al.	腫瘍内科
ACS Med Chem Lett. 3; 560-564, 2012.	Diaminopyridine-Based Potent and Selective Mps1 Kinase Inhibitors Binding to an Unusual Flipped-Peptide Conformation.	Daigo Y et al.	腫瘍内科
J Pediatr Hematol Oncol . 2012; 34(1):e22-5.	A Case of Retroperitoneal Immature Teratoma With Nephroblastic Components.	Ishida M et al.	小児科
Spine J. 2012; 12(1):e1- 6.	Spinal glioblastoma multiforme of the conus medullaris with holocordal and intracranial spread in a child: a case report and review of the literature.	Mori K et al.	小児科
Blood. 2012; 120: 1810- 1815	Clinical characteristics and outcome of refractory/relapsed myeloid leukemia in children with Down syndrome.	Taga T et al.	小児科
Epilepsy Res. 102: 113- 116, 2012.	Altered distribution of inhibitory interneurons in polymicrogyria.	Takano T	小児科

小計

16

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Brain Dev. 34: 796-798, 2012.	A pediatric case of reversible cerebral vasoconstriction syndrome with cortical subarachnoid hemorrhage.	Yoshioka S et al.	小児科
Journal of Signal Processing. 16(2) : 159~170・2012	Separation algorithm for biosignals as preprocess in detecting circulatory disease	Kurumi Y et al.	消化器・ 乳腺・一般外科
外科. 74(6) : 661~664・2012	カプセル内視鏡により発見された小腸 gastrointestinal stromal tumorの1例	小島 正継 他	消化器・ 乳腺・一般外科
癌と化学療法. 39(4) : 667~670・2012	Dihydropyrimidine Dehydrogenase Inhibitory Fluoropyrimidines (DIF) 製剤とPaclitaxelとの併用療法により腹水の消失が得られ長期に良好なQOLを保つことのできた胃癌腹膜播種の2症例	奥村 憲二 他	消化器・ 乳腺・一般外科
J. Microwave Surg. 30 : 183~190・2012	Development of instruments to assist accurate puncture of liver tumors for MRI-guided microwave ablation -From a simple spacer to a motorized robot-	Morikawa S et al.	消化器・ 乳腺・一般外科
エンドトキシン・自然免疫研究. 15・31~34・医学図書出版・東京・2012	Endotoxin scattering photometry (ESP) 法による血中ET測定の実状と課題	清水 智治 他	消化器・ 乳腺・一般外科
日本外科感染症学会雑誌. 9(4) : 327~334・2012	ESP法(Endotoxin scattering photometry)による血中エンドトキシン測定	清水 智治 他	消化器・ 乳腺・一般外科
エンドトキシン血症救命治療研究会誌. 16(1) : 26~31・2012	Endotoxin scattering photometry (ESP) 法による敗血症患者での血中エンドトキシンの評価	清水 智治 他	消化器・ 乳腺・一般外科
Int J Clin Oncol. Published online : 07・2012	Feasibility and toxicity of decetaxel before or after fluorouracil, epirubicin and cyclophosphamide as adjuvant chemotherapy for early breast cancer	Abe H et al	消化器・ 乳腺・一般外科
日本臨床. 70(7) : 687~692・2012	乳癌(第2版) -基礎と臨床の最新研究動向-	阿部 元 他	消化器・ 乳腺・一般外科
エンドトキシン血症救命治療研究会誌. 16(1) : 93~101・2012	消化器外科手術でのEndotoxin activity assay (EAA)の変動に関する検討	赤堀 浩也 他	消化器・ 乳腺・一般外科
Histopathology. 2012 Aug;61(2):162-9. doi: 10.1111	Clinicopathological characteristics and prognostic factors of advanced colorectal mucinous adenocarcinoma	Yamaguchi Tomohiro, Tani Tohru, et al	消化器・ 乳腺・一般外科
Int J Clin Oncol. 17 : 240~249・2012	Myeloid cells positive for CD10 at invasion front can predict poor outcome in stage II colorectal cancer	Do Trong Khanh, Mekata Eiji, Tani Tohru, et al	消化器・ 乳腺・一般外科
日本臨床外科学会雑誌. 73(11) : 2745~2751・2012	左側閉塞性大腸癌症例の臨床経過	前平博充、清水智治 他	消化器・ 乳腺・一般外科
Ann Thorac Cardiovasc Surg. 2012;18(1):8-11	Early to Midterm Results of Cardiac Surgery with Concomitant Pulmonary Resection.	Hosoba S	心臓血管外科
J Cardiovasc Electrophysiol. 2012 23(6):645-9	Time Course and Prognostic Implications of QT Interval in Patients with Coronary Artery Disease Undergoing Coronary Bypass Surgery.	Kinoshita T	心臓血管外科
Curr Cardiol Rp. 2012; 14:418-23	Preservation of Myocardium During Coronary Artery Bypass Surgery	Kinoshita T	心臓血管外科
Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2012 60(9):581-3	Successful surgical management of coronary perforation requiring pulmonary artery separation.	Takashima N	心臓血管外科
Interact Cardiovasc Thorac Surg. 2012 15(1):178-80	Successful surgical repair of platypnea-orthodeoxia syndrome in a patient with cerebral infarction.	Takashima N	心臓血管外科

小計

19

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Semin Thoracic Surg. 24:59-62 2012年	Postinfarction Ventricular Septal Defect : Right Ventricular Approach - The Extended "Sandwich" Patch	Asai T	心臓血管外科
Innovations. 2012;7(3):191-4	Histological and Morphometric Properties of Skeletonized Gastroepiploic Artery and Risk Factors for Intimal Hyperplasia	Doan Van Phung	心臓血管外科
Innovations (Phila). 2012 Nov-Dec;7(6):435-40.	Intraoperative fluorescence imaging after transit-time flow measurement during coronary artery bypass grafting.	Kuroyanagi S	心臓血管外科
日本呼吸器外科学会雑誌. 26(5), 490-497, 2012	間質性肺炎合併肺癌に対する周術期ステロイドとシベレスタットの使用経験	大内 正嗣 他	呼吸器外科
Cancer Chemotherapy and Pharmacology. 70(4), 531-537, 2012	A Phase II study of docetaxel plus nedaplatin in patients with metastatic non-small-cell lung cancer.	Teramoto K et al.	呼吸器外科
Spine J. 12; e1-6, 2012.	Spinal glioblastoma multiforme of the conus medullaris with holocordal and intracranial spread in a child: a case report and review of the literature	Mori K et al.	整形外科
Br J Pharmacol. 166; 702-720, 2012.	17 β -Oestradiol inhibits doxorubicin-induced apoptosis via block of the volume-sensitive Cl^- current in rabbit articular chondrocytes	Kumagai K et al.	整形外科
PLOS ONE. 7; e44592, 2012.	Brain-derived neurotrophic factor from bone marrow-derived cells promotes post-injury repair of peripheral nerve	Takemura Y et al.	整形外科
JOSKAS. 37; 136-137, 2012.	滑膜骨軟骨腫症による軟骨損傷に対して鏡視下骨軟骨移植術を施行した一例	上中 一泰 他	整形外科
中部整災誌. 55; 305-306, 2012.	セメントTHAの長期成績 -当院における歴史と結果-	三村 朋大 他	整形外科
Hip Joint. 38; 1104-1107, 2012.	GVHD後の特発性大腿骨頭壊死症に対して骨頭回転骨切り術を行い、7週目の骨シンチで集積を認めた1例	三村 朋大 他	整形外科
日本人工関節学会誌. 42; 11-12, 2012.	当大学におけるTHAの歴史と結果 -2000年から2010年までの全症例分析-	三村 朋大 他	整形外科
Neurol Med Chir (Tokyo). 52: 607-611, 2012	Tuberculum sellae meningioma causing progressive visual impairment during pregnancy	Nozaki K et al	脳神経外科
World Neurosurgery. 78(1-2): 45-46, 2012, 2012	Surgical Intervention for Cerebral Ischemia: Effective or not?	Nozaki K et al	脳神経外科
World Neurosurgery. 78(3-4): 223-225, 2012, 2012	Intra-arterial infusion therapy for cerebral vasospasm: promising but preliminary	Nozaki K et al	脳神経外科
Lab Invest. 92: 522-531,	Transplantation of telencephalic neural progenitors induced from embryonic stem cells into subacute phase of focal cerebral ischemia	Nozaki K et al	脳神経外科
Neurol Med Chir (Tokyo). 52: 873-877, 2012	Inadequate communication between patients with unruptured cerebral aneurysms and neurosurgeons	Saito M et al	脳神経外科
日本鼻科学会誌. 51(3). (325)171. 2012	アルツハイマー病患者の鼻腔で検出されるアミロイド β の意義について	清水 志乃 他	耳鼻咽喉科
Reproductive biomedicine online. 24:603-605	Successful delivery following ICSI with Macrocephalic sperm head syndrome:a case report	Shimizu S et al.	母子・女性診療科

小計

19

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Gynecology and Minimally Invasive Therapy. 2:27-29	Comparison of the outcome of in vitro fertilization after laparoscopic laser ablation surgery versus laparoscopic cystectomy for endometrioma	Takebayashi A et al.	母子・女性診療科
International Journal of Urology. Jun:19(6)504-511	Epigenetics: A way to understand the origin and biology of testicular germ cell tumors	Okamoto K	泌尿器科
J Uro. 187(5):1876-1881	Therapeutic potential of SOX2 inhibition for embryonal carcinoma.	Okamoto K	泌尿器科
Mol Carcinog. 51(9):711-722	Methylation profile of DNA repetitive elements in human testicular germ cell tumor	Okamoto K	泌尿器科
腎臓. vol. 35No.2 117-122	尿中ウロプラキンmRNA測定による低侵襲な先天性膀胱尿管逆流症検査法の開発	影山 進	泌尿器科
泌尿器科紀要. 58(8):431-434	腎細胞癌小腸転移の1例	影山 進	泌尿器科
日本女性骨盤底医学会誌. 9(1): 109-112, 2012.	TOTリング手術の治療成績に対する骨盤臓器脱修復術 (TVM手術) 同時施術の影響.	荒木 勇雄	泌尿器科
Investigative ophthalmology & visual science. 2012 Aug 24;53(9):5877-80.	Effect of vitrectomy on aqueous VEGF concentration and pharmacokinetics of bevacizumab in Macaque monkeys.	Kakinoki M et al.	眼科
Acta ophthalmologica. 2011 Dec 1. doi: 10.1111/j.1755-3768.2011.02298.x.	Prospective Comparisons of Intravitreal Injections of Triamcinolone Acetonide and Bevacizumab for Macular Edema due to Branch Retinal Vein Occlusion.	Higashiyama T et al.	眼科
Journal of ophthalmology. 2012 doi:10.1155/2012/959721	Comparison of macular thickness in diabetic macular edema using spectral-domain optical coherence tomography and time-domain optical coherence tomography.	Kakinoki M et al.	眼科
Ophthalmic research. 2012;47:135-140 . [Epub ahead of print]	Comparison between One Injection and Three Monthly Injections of Intravitreal Bevacizumab for Myopic Choroidal Neovascularization.	Niwa Y et al	眼科
眼科臨床紀要5. (9):826-831, 2012	網膜中心静脈閉塞症に伴う黄斑浮腫に対するトリアムシノロンおよびベバシズマブ硝子体内投与の効果の比較:6ヵ月間での無作為前向き検討	内藤 文之 他	眼科
眼科臨床紀要. 5(1): 42-45, 2012	外斜視術後の戻りに対する両眼内直筋短縮術の手術効果.	東山 智明 他	眼科
Biochemical and biophysical research communications. 424:152-157, 2012.	Unique haplotype in exon 3 of cone opsin mRNA affects splicing of its precursor, leading to congenital color vision defect.	Ueyama H et al.	眼科
British Journal of Pharmacology. 166; 2117-2135, 2012.	Inhibitory effects of sevoflurane on pacemaking activity of sinoatrial node cells in guinea-pig heart.	Kojima A et al.	麻酔科
British Journal of Anaesthesia. 109; 352-360, 2012.	Presence of store-operated Ca ²⁺ entry in C57BL/6J mouse ventricular myocytes and its suppression by sevoflurane.	Kojima A et al.	麻酔科
Circulation Journal. 76; 2746-2747, 2012.	Electrophysiological importance of embryonic stem cell-derived cardiac progenitors.	Kojima A et al.	麻酔科
ペインクリニック. 33:1141-1146, 2012.	慢性椎間板性腰痛に対する椎間板内高周波熱凝固法 (IDET) の治療効果の検討	福井 聖 他	ペインクリニック科
ペインクリニック学会雑誌. 20:1-7, 2012.	パルス高周波法 (pulsed radiofrequency:PRF) up to date	福井 聖	ペインクリニック科

小計

19

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
ペインクリニック. 33:77-81, 2012.	腰椎椎間板ヘルニアに対する経皮的 高周波椎間板減圧術の治療経験	福井 聖 他	ペインクリニック科
ペインクリニック. 33:83-87, 2012.	慢性椎間板性腰痛に対する椎間板内パルス高周波法)の治療経験	福井 聖 他	ペインクリニック科
脊椎・脊髄ジャーナル. 25:355-363, 2012.	硬膜外神経形成術・パルス高周波法	福井 聖	ペインクリニック科
Lisa. 19:2012-2016, 2012.	ECTからrTMSへ、そひてP-RFが痛みの治療を変える。	福井 聖	ペインクリニック科
ペインクリニック. 3:1155-1162, 2012.	パルス高周波法 (pulsed radiofrequency) による痛みの治療	福井 聖	ペインクリニック科
Anet. 16:32-34, 2012.	高周波熱凝固法とパルス高周波法による痛みの治療	福井 聖	ペインクリニック科
J Anest. 26:606-609, 2012.	Results of pulsed radiofrequency technique with two laterally placed electrodes in the annulus inpatients with chronic lumbar discogenic pain.	Fukui S et al.	ペインクリニック科
Open J Medical Imaging. 3, 12-16, 2013.	H-MR Spectroscopy of the Anterior Cingulate Cortex; Usefulness in the prediction of patients that will benefit from a cognitive behavioral therapy in the treatment of chronic pain.	Fukui S et al.	ペインクリニック科
Korean J pain. 25; 155-160, 2012.	Results of intradiscal pulsed radiofrequency for lumbar discogenic pain: comparison with intradiscal electrothermal therapy.	Fukui S et al.	ペインクリニック科
Pain Medicine. 13:762-768, 2012.	The results of percutaneous intradiscal high-pressure injection of saline in patients with extruded lumbar herniated disc: comparison with microendoscopic discectomy.	Fukui S et al.	ペインクリニック科
J Anesth. 26:786-789, 2012.	Percutaneous intradiscal high-pressure injection of saline and lidocaine in patients with lumbar intervertebral disc extrusion.	Fukui S et al.	ペインクリニック科
ペインクリニック学会雑誌. 20:12-16, 2013.	Decompressorを用いた経皮的瑞鶴摘出術の検討	仲西 信乃 他	ペインクリニック科
ペインクリニック学会雑誌. 20:116-117, 2013.	痛みの管理における麻酔科医の役割-Eija Kalso講演会印象記-	西江 宏行、福井 聖 他	ペインクリニック科
International journal of nanomedicine. 7; 2271-2280, 2012.	Evaluation of atherosclerotic lesions using dextran- and mannan-dextran-coated USPIO: MRI analysis and pathological findings.	Tsuchiya K et al.	放射線科
Experimental and therapeutic medicine. 4;201-204, 2012.	Vascular regeneration by pinpoint delivery of growth factors using a microcatheter reservoir system in a rabbit hind-limb ischemia model.	Nitta N et al.	放射線科
Japanese journal of radiology. 30:398-406, 2012.	Mycobacterium kansasii pulmonary infection: CT findings in 29 cases.	Takahashi M et al.	放射線科
Minimally invasive therapy and allied technologies. 22; 89-96, 2012.	320-detector-row computed tomography arteriography using CO2 gas to detect malignant liver tumors.	Sonoda A et al.	放射線科
Japanese journal of radiology. 30:832-839, 2012.	Negatively charged superparamagnetic iron oxide nanoparticles: a new blood-pooling magnetic resonance contrast agent.	Nitta N et al.	放射線科
日本口腔ケア学会雑誌. 6(1)・26-31・2012	滋賀県下の病院における口腔ケアの現状-アンケートによる実態調査-	越沼 伸也 他	歯科口腔外科
滋賀県医師会報. 62(2)・20-21・2012	糖尿病と歯周病について	越沼 伸也 他	歯科口腔外科
呼吸器内科. 21(5)・453-458・2012	GERDと歯牙酸蝕症候群	肥後 智樹 他	歯科口腔外科
日本口腔診断学会. 25(1)・8-12・2012	良性腫瘍を思わせた低悪性度粘表皮癌の1例	鷺本 剛 他	歯科口腔外科

小計

22

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本口腔外科学会雑誌. 58(5)・302-306・2012	下顎骨を含めて異時性に多発した形質細胞腫の1例	佐藤 翔 他	歯科口腔外科
Diabetes Frontier. 23 (6)・637-640・2012	糖尿病と歯周病の1例	長山 浩二 他	歯科口腔外科
日本歯科麻酔学会雑誌. 41(2)・75-76・2013	静脈内鎮静法下に抜歯を行った遺伝性血管性浮腫患者の1例・	中井 徹 他	歯科口腔外科
WCOC Year Book. 2011・ 76-81・2012	A case of rehabilitation of masticatory function by immediate loading implant treatment	Nishikawa M et al.	歯科口腔外科
24 Jan, 2013・PLOS ONE 10.1371/journal.pone.0054881	Mechanisms Underlying Cancer Progression Caused by Ezrin Overexpression in Tongue Squamous Cell Carcinoma	Saito S et al.	歯科口腔外科
Heart Rhythm. 2012;9(1):66-74	Clinical and electrocardiographic characteristics of patients with short QT interval in a large hospital-based population.	Miyamoto A, Hayashi H et al.	リハビリテーション科
Circulation Arrhythm Electrophysiol. 2012 Dec;5(6):e114.	Letter by Hayashi et al Regarding Article, "Early Repolarization is an Independent Predictor of Occurrences of Ventricular Fibrillation in the Very Early Phase of Acute Myocardial Infarctions"	Hayashi H, Horie M	リハビリテーション科
Intern Med. 2012;51(14):1941	J-point Elevation Induced by Double Master Two-step Test.	Yoshino T, Hayashi H et al.	リハビリテーション科
Intern Med. 2012;51(15):1987-90.	Agranulocytosis Immediately after Oral Administration of Cibenzoline and Dabigatran in a Patient with Paroxysmal Atrial Fibrillation.	Hayashi H et al.	リハビリテーション科
Circulation J. 2013;77(1):60-7.	Prognostic Implications of Progressive Cardiac Conduction Disease.	Kawaguchi T, Hayashi H et al.	リハビリテーション科
Intern Med. 2013;52(1):3-4.	Brachial Ankle Pulse Wave Velocity: A Classic but Still Important Method.	Hayashi H, Fujita M.	リハビリテーション科
J Cardiol. Volume 8, Issue 2, August 2013, Pages e85-e87	Spontaneous Coronary Artery Spasm Accidentally Detected by 320-row Multi-detector Computed Tomography.	Kawaguchi T, Hayashi H et al.	リハビリテーション科
J Am Coll Cardiol. 2013 Jul 2;62(1):86.	Pitfall of the meta-analysis regarding early repolarization pattern.	Hayashi H et al.	リハビリテーション科
Intern Med. 2013;52(12):1425.	Restoration of aberrant conduction induced by premature ventricular contractions.	Hayashi H et al.	リハビリテーション科
心臓リハビリテーション学会誌. 2012;17:93-97.	心大血管術後の愁訴が有酸素運動の開始に与える影響	平岩 康之 他	リハビリテーション科
Progress in Medicine. 基礎・治療 Vol. 33 suppl. 1(2013) (718-722)	植込み型除細動器の不適切作動に対するアミオダロンの有用性.	林 秀樹 他	リハビリテーション科
日本アフェレンシス学会雑誌. 31(2), 144-147, 2012-05-31	敗血症性多臓器不全に対するPlasma Filtration with Dialysis [Plasma Diafiltration (PDF)]	江口 豊 他	救急・集中治療部
Journal of Gastrointestinal and Liver Disease. 2012 Dec;21(4):383-90	Magnifying Endoscopy with Narrow-Band Imaging in the Differential Diagnosis of Gastric Adenoma and Carcinoma and Identification of a simple Indicator.	Mochizuki Y et al.	光学医療診療部
Journal of Gastrointestinal Cancer. 2012 Dec;43(4):599-606. doi: 10.1007	Magnified Endoscopy Combined with Narrow Band Imaging of Minimal Superficial Esophageal Neoplasia-Indicators to Differentiate Intraepithelial Neoplasias	Mochizuki Y et al.	光学医療診療部

小計

19

雑誌名	題 名	発表者氏名	所属部門
Am J Hypertens. 2012 Nov;25(11):1170-4. doi: 10.1038	High Sodium Intake is Associated With Masked Hypertension in Japanese Patients With Type 2 Diabetes and Treated Hypertension.	Uzu T et al.	血液浄化部
Geriatr Gerontol Int. 2012 Apr;12 Suppl 1:127- 33. doi: 10.1111	Factors associated with progression of diabetic nephropathy in Japanese elderly patients with type 2 diabetes: sub-analysis of the Japanese Elderly Diabetes Intervention Trial.	Araki S et al.	血液浄化部
Diabetes Care. 2013 May;36(5):1248-53. doi: 10.2337	Predictive Effects of Urinary Liver- Type Fatty Acid-Binding Protein for Deteriorating Renal Function and Incidence of Cardiovascular Disease in Type 2 Diabetic Patients Without Advanced Nephropathy.	Araki S et al.	血液浄化部
J Diabetes Investig. 2012 Jun;3(3):318-324	Association between urinary angiotensinogen levels and renal and cardiovascular prognoses in patients with type 2 diabetes mellitus.	Sawaguchi M et al.	血液浄化部
J Card Fail. 2012 No;18 (11)872-8	A global transcriptom analysis of a dog model of congestive heart failure with human genome as a reference	Isono T et al.	検査部
Auris Nasus Larynx. 2012, 39(2);224-8	Succesful treatment of rhino-orbital mucormycosis by a new combination therapy with liposomal amphotericin B and Micafungin	Ogawa T et al.	検査部
Oncol Lett. 2012 Sep;4(3):390-392. Epub 2012	Fibrosarcomatous pigmented dermatofibrosarcoma protuberans;A case report with review of the literature	Ishida M et al.	検査部
Oncol Lett. 2012 Sep;4(3):381-384. Epub 2012	Systemic Epstein-Barr Virus-positive T-cell LYMPHOPROLIFERATIVE disease of childhood;Report of a case with review of literature	Yoshii M et al.	検査部
Diagn Cytopathol. 2012 Sep 25. doi;10.1002/dc.22919.	Fine-needle aspiration findings of metastatic porocarcinoma	Kagotani A et al.	検査部
Diagn Cytopathol. 2012 Aug 4. doi;10.1002/dc.22909.	Adenoid cystic carcinoma of the external auditory canal successfully diagnosed by fine-needle aspiration	Kagotani A et al.	検査部
医学検査. Vol. 62 No. 1;88-91, 2013.	Diego b 血液型不適合妊娠の1例	山下 朋子 他	輸血部
Biom Rep. 2013; 1: 28- 30.	Expression profiles of mTOR pathway proteins in porocarcinoma: a provisional immunohistochemical study.	Ishida M, Okabe H.	病理部
European Journal of Physiology. 463:649-668, 2012	Postnatal development decline in IK1 in mouse ventricular myocytes isolated by the Langendorff perfusion method: comparison with the chunk method,	Hoshino S et al.	臨床研究開発セン ター
日本小児臨床薬理学会雑 誌. 25:90-94, 2012	国立大学病院における小児を対象とした 治験の現状	池田 律子 他	臨床研究開発セン ター
Eur J Radiol. 81:2375-9, 2012	Morphometric characterization of Binswanger's disease: Comparison with Alzheimer's disease.	Shiino A et al	MR総合医学研究 センター
Chemistry and Physics of Lipids. 165; 571-576, 2012.	Specific and sensitive enzymatic measurement of sphingomyelin in cultured cells.	Morita S et al.	薬剤部
Case Reports in Oncology. 5; 627-632, 2012.	Pharmacokinetic/Pharmacodynamic Analysis of a Hemodialyzed Patient Treated with 25 mg of Sunitinib.	Noda S et al.	薬剤部

小計

17

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門	
Drug Metabolism and Pharmacokinetics. 27; 563-569, 2012.	Renal tubular secretion of varenicline by multidrug and toxin extrusion (MATE) transporters.	Terada T et al.	薬剤部	
Drug Metabolism and Pharmacokinetics. 27; 631-639, 2012.	Impact of genetic variation in breast cancer resistance protein (BCRP/ABCG2) on sunitinib pharmacokinetics.	Terada T et al.	薬剤部	
Chemical and Pharmaceutical Bulletin. 60; 989-994, 2012.	Distribution of polyphenols and a surfactant component in skin during Aerosol OT microemulsion-enhanced intradermal delivery.	Morita S et al.	薬剤部	
Journal of Lipid Research. 54; 1221-1230, 2013.	Bile salt-stimulated phospholipid efflux mediated by ABCB4 localized in nonraft membranes.	Morita S et al.	薬剤部	小計
日本小児臨床薬理学会雑誌. 24; 86-89, 2012.	小児薬物療法における薬物相互作用に関する医薬品の処方実態	藤田 彩子 他	薬剤部	7
医療薬学. 39; 77-84, 2013.	外来がん化学療法における服薬指導の導入とその効果	須藤 正朝 他	薬剤部	計
医療薬学. 39; 98-103, 2013.	ドライシロップ剤を添加したシロップ剤の秤取精度の評価	森田 真也 他	薬剤部	168

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 柏木 厚典
管理担当者氏名	放射線部長／臨床工学部長 村田 喜代史 薬剤部長 寺田 智祐 安全管理部長 手塚 則明 感染制御部長 中野 恭幸 総務課長 植田 久和 医療サービス課長 小林 哲郎 病院管理課長 大見 章

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		医療サービス課 (診療情報管理室) 薬剤部 放射線部	紙カルテによる診療録等の病歴資料は、外来・入院別に1患者1ファイル方式によって永久一元番号で分類している。入院診療録は①退院日から10年間は現物保管、②退院日から10年を経過したものは光ファイリングののち廃棄している。また、外来診療録は①最終受診日から10年間は現物保管、②最終受診日から10年を経過し、入院歴のあるものは光ファイリングののち廃棄、③入院歴のないものはそのまま廃棄している。 エックス線写真は、マンモグラフィーのみフィルム保管を原則としている。来院日より5年を過ぎたものは、一般撮影に関しては平成18年3月以降分をデジタル化、アンギオに関しては平成22年12月からフィルムレス化を実施している。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	
	高度の医療の実績	病院管理課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	病院管理課	
	高度の医療の研修の実績	総務課	
	閲覧実績	医療サービス課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医療サービス課	
	入院患者数、外来患者数及び調剤の数を明らかにする帳簿	医療サービス課及び薬剤部	
第規一則号第一に掲げる十一の体制の確保の状況及び第九の二十三第一項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全管理部	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全管理部	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療サービス課	

(様式第12)

		保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	臨床工学部
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学部
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学部
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学部

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び
紹介患者に対する医療提供の実績

○ 病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病院長 柏木 厚典
閲覧担当者氏名	医療サービス課長 小林 哲郎
閲覧の求めに応じる場所	医療サービス課 面談室

○ 病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

○ 紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	75.8 %	算定期間	平成24年4月1日 ~ 平成25年3月31日
算出根拠	A: 紹介患者の数	12,671人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	10,640人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	1,872人	
	D: 初診の患者の数	22,595人	

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
- 2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

規則第1条の11第1項各号及び第9条の23第1項各号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有 ・ 無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療安全管理に関する基本的な考え方 2) 医療安全管理のための委員会その他組織に関する基本事項 3) 医療安全管理のための職員研修に関する基本方針 4) 報告等にもとづく医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 5) 医療事故等重大なインシデント発生時の対応に関する基本方針 6) 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針 7) 患者からの相談への対応に関する基本指針 8) その他医療安全の推進のために必要な基本方針 	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 12 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療安全管理の企画立案に関すること。 2) インシデント等の状況の分析に関すること。 3) 医療安全管理に係る教育及び研修に関すること。 4) 医療安全管理指針の策定及び変更に関すること。 5) 医薬品安全使用のための業務手順書の作成又は変更に関すること。 6) 医療安全マニュアルに関すること。 7) インシデントの公的機関への報告及び公表等に関すること。 8) 発生したインシデントの患者及び家族等への対応に関すること。 9) その他医療事故、医事紛争及び訴訟に関すること。 (別添「滋賀医科大学医学部附属病院医療安全管理委員会規程」参照) 	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 3 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <p style="margin-left: 20px;">講師を招聘しての講演会、院内講師による研修会、外部の研修会への参加等</p> 	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有 ・ 無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ ニュース・レターの発行や院内ホームページへの掲載により、職員に周知している。 ・ 毎月の重要なインシデント及びその対策について、各部署リスクマネージャーが周知し、情報の共有化を図っている。 ・ 院内ラウンドによるチェックを行っている。 	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 (2 名) ・ 無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (3 名) ・ 無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有 ・ 無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 所属職員： 専任(5)名 兼任(13)名 ・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療安全管理に関すること及び感染予防対策の推進に関すること ・ 医療安全管理委員会及び感染予防対策委員会への情報提供及び改善策の提案に関すること ・ インシデント報告の調査及び分析に関すること ・ 医療安全管理に関する事例、対策等の情報収集に関すること等 (別添「滋賀医科大学医学部附属病院医療安全管理部規程」、「滋賀医科大学医学部附属病院感染制御部規程」参照) 	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に対応される体制の確保状況	有 ・ 無

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有 ・ 無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1) 院内感染対策に関する基本的な考え方 2) 院内感染対策のための委員会その他の組織に関する基本的事項 3) 院内感染対策のための職員研修に関する基本方針 4) 感染症の発生状況の報告に関する基本方針 5) 院内感染発生時の対応の基本方針 6) 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 7) その他院内感染対策の推進のために必要な基本方針 	
② 院内感染のための委員会の開催状況	年 12 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1) 感染予防対策の企画立案に関すること。 2) 院内感染対策のための指針の策定及び変更に関すること。 3) 感染予防対策マニュアルに関すること。 4) 感染予防対策に係る監視及び指導に関すること。 5) 感染源の調査に関すること。 6) 感染予防対策に係る教育及び研修に関すること。 7) その他感染予防対策に関すること。 (別添「滋賀医科大学医学部附属病院感染予防対策委員会規程」、「滋賀医科大学医学部附属病院感染対策チーム内規」参照) 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 7 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <p style="margin-left: 40px;">講師を招聘しての講演会、院内講師による研修会、外部の研修会への参加等</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有 ・ 無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ ニュース・レターの発行や院内ホームページへの掲載及び学内メールにより、職員に周知している。 ・ 感染制御部および感染対策チーム委員会において、感染症の発生状況と対策について検討し、各部署の感染リンクスタッフに周知し、情報の共有化を図っている。 ・ 実施状況について院内ラウンドによるチェックを行っている。 	

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	○ 有 ・ 無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ○ 平成24年10月23日（火）に講演会を開催 テーマ：インシデントから学ぶ薬剤の知識と看護 ～薬剤投与 安全に！確実に！～ 講師：滋賀医科大学医学部附属病院 薬剤部長 寺田 智祐 ○ 平成24年12月6日（木）に講演会を開催 テーマ：腎臓と医薬品 「造影剤腎症の総論」 講師 滋賀医科大学医学部附属病院 腎臓内科 宇津 貴 「院内造影剤腎症予防がトラインの解説」 講師 同 放射線部 高橋 雅士 「腎排泄型薬剤の適正使用」 講師 同 薬剤部 寺田 智祐 	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 手順書の作成 (○ 有 ・ 無) ・ 業務の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ○ 平成24年12月 業務内容の変更に伴い、手順書の改訂を行った（第6版） ○ 平成25年 7月 業務手順書に準じた業務実施状況の確認を行った。 	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (○ 有 ・ 無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ○ 医薬品添付文書情報は、改訂の都度メーカーに請求して差替えている。また、電子カルテないの添付文書情報も逐次更新している（オーダー時に参照可能）。 ○ 医薬品集電子版を電子カルテ全端末に配信している。添付文書情報以外に、重大な副作用や効能効果の追加等の添付文書改訂情報や、薬剤部で作成した後発医薬品一覧や術前中止薬一覧等が掲載され、オーダー時に閲覧可能である。 ○ 医薬品医療機器情報配信サービス(PMDAメディナビ)の安全性情報メールを薬剤師全員が受信している。必要に応じて病院全職員にも配信を行っている。 ○ 医薬品の安全性情報、回収情報、処方オーダー関連情報等を一覧できる医薬品情報に特化した院内医療従事者専用のWEBページを新たに作成した。 ○ 定期的な検査の実施が必要な医薬品について、院内取扱いルールを決めた。 	

